

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

市町名	大崎上島町
所属名	健康福祉課
担当者名	岡崎幸子
連絡先(電話)	0846-62-0301

タイトル	認知症対策の総合的推進
区分(あてはまるものにチェックを)	☒ 自立支援、介護予防、重度化防止 ☐ 介護給付費等適正化

現状と課題

認知症についての理解が浸透しつつあるも、認知症についての偏見や思い込みは依然として存在し、早めの対応につながらない現状がある。誰もが認知症になっても希望を持って地域で暮らせるよう、認知症への理解や対応力の向上について努めていく必要がある。

第9期（令和7年度）における具体的な取組

- 認知症サポーター養成講座の実施
- 認知症ステップアップ講座の実施
- 認知症カフェの開催・充実
- 広報等による認知機能低下予防に資する可能性のある活動の周知
- 広報等による役割・生きがいの効果についての周知
- 認知症に対する理解と認知機能低下予防プログラム学習会の実施
- 認知症ケアパスの改定と周知
- 専門医による個別相談会
- 認知症初期集中チームの設置
- 認知症地域支援推進員の設置
- 認知症の人と家族の会の開催
- 認知症高齢者等の支援に関わる竹原警察署と大崎上島町の相互連携に関する事業の継続運用
- 徘徊高齢者等 SOS ネットワーク事前登録事業の継続
- 認知症の人と家族の会の開催
- チームオレンジ活動の実施
- 認知症サポーター活動の実施
- 認知症講演会の実施
- 認知症地域支援推進員と県の若年性認知症コーディネーター、若年性認知症サポートとの連携支援体制の整備

目標（事業内容、指標等）

対 策	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
	目標	目標	目標
認知症地域支援推進員の設置	1 人	1 人	1 人
認知症カフェ	1 か所	1 か所	1 か所
認知症サポーター養成講座（住民）	1 回	1 回	1 回
（海星高校）	1 回	1 回	1 回
（地域役員等）	1 回	1 回	—
（地域ボランティア）	1 回	1 回	—
認知症ステップアップ講座（住民）	1 回	1 回	1 回
（地域役等）	4 回	1 回	1 回
（地域ボランティア）	1 回	1 回	1 回
認知症講演会	1 回	1 回	1 回
認知症ケアパスの改定と周知	1 回	1 回	1 回
予防に資する可能性のある活動の周知	2 回	2 回	2 回
広報による役割、生きがいの効果の周知	1 回	1 回	1 回
認知機能低下予防プログラムの実施	1 クール	1 クール	1 クール
専門医による個別相談会の実施	3 回	3 回	3 回
認知症初期集中チームの設置	1 か所	1 か所	1 か所
認知症初期集中チーム会議の開催	2 回～必要時	2 回～必要時	2 回～必要時
認知症の人と家族の会の開催	1 か所	1 か所	1 か所
支援に関する竹原警察署と相互連携事業	継続	継続	継続
徘徊高齢者等 SOS ネットワーク登録事業	継続	継続	継続
若年性認知症サポートルームとの連携支援体制整備	1 か所	1 か所	1 か所
チームオレンジ活動の実施	1 か所	1 か所	1 か所
認知症サポーター活動の実施	1 か所	1 か所	1 か所

目標の評価方法

事業実績評価

取組と目標に対する自己評価シート(自己評価結果)

(実績評価)

実施内容

○認知症地域支援推進員の専任設置（R1.5～）

設置済み

○認知症カフェ

R7年度 のべ利用者数 当事者 74人 家族 31人 地域 32人

○認知症サポーター養成講座の実施

R7年度 開催数 4回 参加者 92人
住民 17人
民生委員・高齢者巡回相談員 50人
大崎海星高校1年生 25人

○認知症サポーターステップアップ研修の実施

R7年度 開催数 1回 参加者 15人
住民 15人

○認知症講演会

R7年度 開催数 1回 参加者 72人

○認知症ケアパスの改定と周知

R7年度認知症地域支援推進員により、H30年度に作成したケアパスを、毎年度見直しを行い、関係機関に配布した。また、町のHPに掲載した。

○町内で実施されている認知症予防に資する可能性のある活動の周知 2回

R7 広報記事の掲載 3回

○広報等で役割や生きがいの効果等を周知

R7 広報記事掲載 1回

○認知症に対する認知機能低下予防プログラム学習会の実施

R7年度 開催数 1クール5か月間 1回 参加者 11人

○認知症相談会

R7年度 専門医による個別相談会の実施 開催回数 3回

○町広報に認知症に対する理解・正しい対応・利用できるサービス等の普及啓発

普及啓発のための記事を毎月掲載した。

○認知症初期集中支援チーム活動の実施

R6年度 支援ケース 0件 延べ支援回数 0回 (介護保険サービスにつながったため介入せず)

チーム員会議 5月 1回
会議での検討ケース 実件数 0件

○認知症の人と家族の会の開催

R7年度 参加家族延べ人数 70人

○認知症高齢者等の支援に係る竹原警察署と大崎上島町の相互連携に関する事業の継続運用

R7年度 情報提供受理数 6件

○徘徊高齢者等 SOS ネットワーク事前登録事業の継続

R7年度 登録者 3人

○町の認知症地域支援推進員と県の若年性認知症サポートルームとの連携支援体制の整備
認知症ケアパスに若年性認知症サポートルームについて掲載

○チームオレンジ活動の実施

R7年度 1か所

○認知症サポーター活動の実施

R7年度 認知症カフェの開催

自己評価結果 【○】 ←(◎, ○, △, ×のいずれか※を記載してください。)

○認知症地域支援推進員の設置により、事業等は継続して行えている。

○認知症カフェは当事者、家族、地域住民の参加が継続されている。スタッフも積極的に研修に参加し、チームオレンジの拠点となった。

○認知症サポーターの養成に関しては、一般住民、高校生に加え、民生委員、高齢者巡回相談員に開催した。寸劇やグループワークを取り入れて、新しい参加者も増えている。

○認知症講演会は「認知機能の維持」をテーマに行い、好評であった。

○認知症ケアパスの改定を行い、関係機関、相談会参加者等へ配布し、活用方法を説明した。

○広報に認知症予防に資する可能性のある活動について紹介、役割や生きがいについて紹介した。

○認知機能低下予防プログラム学習会は令和6年度に続いて、くもんの教材を用い脳の健康教室を開催した。

○専門医による認知症に関する相談会は予定通り開催できた。

○町の広報には、認知症に対する理解、正しい対応・利用できるサービス等の普及啓発のための記事を毎月掲載した。

○認知症初期集中チーム活動の件数はなく、早めに介護サービスや受診につながっている。

○認知症と家族の会は予定通り行われており、参加者も増えた。

○竹原警察署と大崎上島町の相互連携に関する事業については、継続し、関係機関との連携を図っている。

○徘徊高齢者等 SOS ネットワークの事前登録も継続して行えている。

○若年性認知症サポートルームとの連携については、若年性認知症のケースがないので、認知症ケアパスへの掲載にて案内している。

○チームオレンジ活動の実施

認知症カフェを拠点とし、7月にチームオレンジを結成した。認知症カフェの外でも支援が見られている。

○認知症サポーター活動の実施

認知症カフェの活動、また認知症ポーターが近隣での支援を行っているケースが存在する。

課題と対応策

認知症の進行を遅らせるために、引き続き早めの対応について普及啓発していくとともに、認知症になっても、希望を持って地域で暮らし続けられるよう、地域全体で認知症に対する理解度を高めていく。

※「◎達成できた、○概ね達成できた、△達成はやや不十分、×全く達成できなかった」